梅光学院同窓会東京支部だより

2022 年 8 月吉日
発行：梅光学院同窓会東京支部
支部長：飯沼菜保美

梅光学院同窓会東京支部　2022 年度の活動についてのお知らせ

東京支部 支部長　飯沼菜保美（高 21）

連日の酷暑に加え、各地で豪雨の被害も聞かれる毎日、皆様方にはお変わりなくお過ごしでしょうか？
さて、去る 4 月 26 日に運営委員会を開催、本年度の活動について話し合い以下のように決定いたしました。

まず、総会ならびに懇親会を中止することにいたします。
現在の新型コロナウィルス感染状況を鑑みますと約 100 名が安心、安全に集うのは難しいと判断いたしました。楽しみになさっていた方も大勢いらっしゃって、とても残念ですが、どうぞご理解くださいますようお願い申し上げます。

しかしながら、今後、同窓会活動は前向きに進めていきたいと思っています。そこで、以下の条件を満たす集まりについては、支部として下記の通りサポートさせていただきます。

①同窓生（梅光に在籍したことのある学生、教職員）5 名以上であること
②会の様子をホームページ等への掲載用に写真をご提供くださること
③サポート費用は支部会員（支部だよりを受け取り年会費を納めている方）1 名につき 1,000 円です
（費用の支給は支部会員のみですが、非会員を含んでも 5 名以上の会であればサポートの対象となります）
④期限は 2022 年 12 月 31 日までの領収書が対象となります
⑤本企画は、期限前であってもサポート費用が 5 万円に達した時点で終了いたします

次に、支部長はじめ役員は昨年で任期満了となっております。昨年、一昨年と総会が中止となりましたので、次回の総会までは役員を継続させていただくことになりました。もし、異議がございましたら、ご連絡をいただきますようお願い申し上げます

また、今年は年会費を徴収いたします。支部だよりの印刷・発送、運営委員会の開催、ホームページの維持、クリスマスカードの発送などで費用がかかるためです。

以上につきまして皆さまのご理解、ご協力をお願いいたします。

世界の情勢に心痛むことが続いておりますが、私たちは平和をお祈りするとともに
梅光の同窓生らしく光の子として歩んでいきたいと心より願っています。

****

会費納入および「落穂の箱」募金のお願い　～　会員の皆さまへ

上記の通り「年会費」「落穂の箱募金」をお願い申し上げます。
「落穂の箱」募金につきましては、同窓会と関りを持ち、寄付を必要とする団体に
充てているほか、東京支部運営のための補助にも充てています。
以上、趣旨をご理解のうえ、ご協力いただきますようお願いいたします。

会費納入につきましては、12 月末までに同封の郵便振込用紙にてお振込みをお願いいたします。
銀行振込についてはホームページ　http://baiko-tokyo.com/?page_id=1472　をご覧ください。

※ 振込人名には必ずフルネームと卒業回（または会員番号）をご記入ください。

※ お振込みいただきましたら、念のためメール（ secretariat@baiko-tokyo.com ）にてご連絡ください。

****

住所・メールアドレス等変更連絡のお願い

東京支部のホームページ（http://baiko-tokyo.com/）は、東京支部の事務局も兼ねております。
入退会や住所変更などは「会員登録・住所変更」メニューよりご連絡ください。お知り合いの消息などもお知らせいただければ幸いです（secretariat@baiko-tokyo.com）。

お問い合せ ：　飯沼 菜保美（高 21）　xxx-xxxx-xxxx　xxxxxxxx@xxxxxxxx.xx.jp
時山 響子　（高 27）　xxx-xxxx-xxxx　xxxxxxxx@xxxxxxxx.xx.jp

追悼（東京支部会員および東京支部総会・懇親会にご出席いただいた旧教職員の方々）敬称略

旧教職	小田 豊	2021/8/15	梅31B	西田 寿子	2019/12/25	高 08	永谷 律子	2020/10/13	高 25	栗田 房子	2018
梅 23	柿内 君子	2020	梅31B	直江 多賀子	2020/10/1	高 09	日置 惠子	2021/7/14	高 26	島津 和代	2018/8/12
梅 25	小林 品子	2019/4/25	高 02	佐藤 偕子	不明	高 11	神野 壽美江	2021/12/1			
梅 25	甲斐 美恵子	2019/7/9	高 02	清 隆子	2021/5/17	高 12	岡田 友弥子	2019/10/22	高 33/大日 15		
梅 26	山田 萬里子	2020/6/5	高 03	吉村 春美	2019/8	高 13	藤本 節子	2018/8		武田 善江	2019/12/28
梅 28	小澤 克子	2020/4	高 05	森 数子	2020/2	高 13	大森 サヨ子	不明	大英04	森永 裕子	2019/1
梅 29	篠崎 芳恵	2019/3/20	高 06	國永 富佐江	2018/11	高 14	長谷部 泰子	不明	中 03	越島 俊子	2019/9
梅 30	坂部 鞆子	2018/7/30	高 06	中山 光世	2022/3/25	高 16	武藤 静代	2018/5/1			

近頃思うこと

大社淑子（高 02）

かつてフィレンツェの彫金師ヴェヌート・チェッリーニは、自伝の冒頭で次のように語っている。（『チェッリーニ自伝』岩波文庫）

「いまは…これほど心身ともに満ち足りたことは過去になかったように思われる。心地よい幸と測り知れない不幸との数々が思いだされるにつけ、振りかえりみれば、五十八のこの歳まで辿り着いたことにわれながら感に堪えない。」（古賀弘人訳）

私はいま彼よりはるかに高齢の九十歳を迎えているが、彼のように「心身ともに満ち足りた」とは到底言えない。人生に期待しすぎたためだろうか。いずれにしても、私の一生が多少とも人々の参考になるかもしれないと思い、記してみることにした。人生は「須臾の間」だということを身に沁みて実感している。

私の人生の最初の二十年は戦争に色濃く塗られた時代だった。満州事変の年に生まれ､梅光の二年生のときに太平洋戦争の終戦を迎えたからだ。それまでは警戒警報と空襲警報に明け暮れ、終戦直前に下関の自宅も学院も焼夷弾の爆撃で焼失した。そして、その後も食料と物資の欠乏した日々が長く続いた。梅光時代にはあまり勉強したおぼえはなく、本ばかり読んで過ごしたような気がする。だが、とてもなつかしい。坪内逍遙訳のシェイクスピア全集や夏目漱石全集を読破したのもこの時代だった。

その後、父が他界し、姉が東京で大手術をして入院するというような事情が重なって、東京に移住することになり、東京の大学で学ぶようになったときも。大学院時代も､文学部を選択した。文学は研究らしい研究とは言えないかもしれないが､その後ずっと文学研究を志し､大学で教鞭を執ったときも、文学と､好きだった英語で生活の資を得られたことは､望外の幸せだと思っている。

その間、機会があって、翻訳にたずさわることになり、これまで四十冊近くを刊行することができた。評論は六冊出版した。ところが、私は要領が悪いので、当該作品だけに集中することができず、手に入るかぎりの文献を読むことにしている。二〇〇七年にノーベル文学賞を受賞したドリス・レッシングや、初めて女性でピューリッツァ賞を受賞したイーディス・ウォートンの場合は､多作だったので､作家自身の作品と評論を会わせると､それぞれ百冊くらいは読んだと思う。一九九三年にノーベル文学賞を受賞したアフリカ系アメリカ人のトニ・モリソンの場合は、八作の翻訳に加えて、書誌を刊行しようと思いついたため、共著者がいたとはいえ、来る日も来る日も四万ページ近くの英文の資料を読んで要約するという根気の要る仕事もした。また、レッシングとモリソンについては、インタヴューも行なうことができた。

だが、このような仕事は主として休暇中に行なったので、講義や会議をサボったことは一度もない。いつも懸命に講義の準備や会議の資料作り、議事録作成などの努力はしたつもりである。もし私の仕事が「精力的だ」と言う人がいたら、その原動力は「好きなことを好きなやり方でした」ということに尽きるかもしれない。だから、それなりに十分楽しむこともできた。

しかし、いま人生の末路に来て心残りに思っていることは、評論を書きたかった英米の女性作家が二人、日本の文学者では、まだ五人が道半ばの状態にあることだ。とはいえ現在は、日本ではあまり知られていないが、翻訳不可能だと言われてきたイギリスの女性作家、アイヴィ・コンプトン＝バーネットの代表作の翻訳に挑んでいる。これが私の最後の作品になるかもしれない。

****

コール梅光は元気です

コール梅光　島村善子（高 27）

2020 年 3 月下関で初めて新型コロナ感染症確認以来、2 年半が経ちました。その間の練習は感染状況により中止・再開を繰り返し 10 回程度しか出来ませんでした。

でも、私たちコール梅光の心臓は動いております。組織として、会員一人ひとりとして。
感染に注意しスタッフ会を重ね、会員中心のクリスマスの集いを続け、活動について常に検討し、動きを止めることはありませんでした。感染が落ち着き練習を再開した時はいつも多くの方が集まり再開と再会を喜んでいます。

来年・2023 年に 20 周年を迎えます。同窓会誌梅光第 37 号（2005 年発行）に短い紹介文がありますが、2004 年の短期大学廃止に伴う大学キャンパス東駅への移転に名残を惜しんで 2002 年マッケンジーホールでのクリスマス礼拝に有志を募りハレルヤコーラスを歌ったのをきっかけとし、2003 年 1 月に「コール梅光」を発会しました。5 周年、10 周年、15 周年と着実に歩んでまいりましたが、今、**パンデミック**という未知の時にあたり、20 周年をどのように迎えようかと思案しているところです。

通常、練習日の木曜 1 時半、集まった私たちはひとしきりおしゃべりをし、澄川先生指導のもと体操を始めます。首を回し、手、腕、肩を回し、腹筋運動、発声と一連のルーティーンを済ませ、曲に取り組みます。梅光第 39 号（2007 年発行）にコール梅光の歌「光の子らしく」の紹介が載っており、歌詞を会員全員で作ったとあります。その中に「光の子らしく歩みなさいと学び」「共に育った私たち」という言葉がありますが、実感するからこそ出た言葉と思っています。自らを整え、隣の人の声を聞き、自分の声と合わせて美しいハーモニーを響かせる。そして、それをお聞きいただく人とも歌の思いを共有してゆく。私たちの望みに心を寄せてこれからも応援していただければと存じます。

東京支部会員の皆さまも暑さと感染症の最中くれぐれもご自愛ください。